

そこに 学校があった

休廃校の歴史

大奈路小学校 (上)



林業と学校再編

大奈路小学校の歴史は、旧大正町北部地域の林業事情の変遷を抜きには語れない。上山郷～東上山村～大正町～四万十町と時代が移っていく中で、当地(以下、旧大正町という)の主力産業といえば林業であり、とりわけ北部一帯は、江戸期にはすでに優良木材の宝庫として、広大な面積が「お留山」として藩に指定されていたほどで、近代になってもその需要は衰えず、林業は地域の支柱であり続けた。明治期以降の小学校設置、移設、再編にあたっては、当時の林業事情による集落形成等の動向が大きく関係したのである。

主要幹線があった対岸から始まった

「創立の時期と場所」は、学校跡地に立つ記念碑や閉校記念誌には「明治5年江師村に開設」とある。しかし、大正町史には「明治8年江師小学校設立」になっている。これについては、1873(明治6)年6月に県から小学校設立に関する指示書が出ているようなので、正式には明治8年ということになるのか。ただ、学制発布が1872(明治5)年なので、それまでの寺子屋以上の取り組みがスタートしていたのかもしれない。その後、1897(明治30)年に大奈路の対岸の西ノ川に尋常小学校ができて、江師や小石からは西ノ川に通学するようになり、江師にあった小学校は1902(明治35)年に廃校。同年、西ノ川尋常小学校も廃校。その校舎を大奈路に移設して大奈路尋常小学校となった。これにより、江師、小石は田野々校区となる。

早くからあった「拠点校になる素地」

元々は田野々へ通じる主要幹線が対岸の西ノ川側だったこと。近代になって、木材の運搬技術が発達したこと。それに伴って道路整備が進んだこと。これらの「林業の近代化に基づくインフラ事情とその変遷」が、そのまま旧大正町北部の「小学校の変遷」であり、複雑な成り立ちをたどった理由といえよう。ただ、そもそも、江師や西ノ川の尋常小学校の基礎となった寺子屋は大奈路にも存在し、1885(明治18)年頃には大奈路組合巡回授業場という名称になっていたというから、早くから大奈路小学校の素地は

できていて、大奈路小学校が周辺地域の拠点校ようになっていくのは必然だったと言えるのかもしれない。

旧大正町北部の義務教育の砦となる

さて、時代が昭和に入って、それまで二転三転してきた周辺地域の学校再編が少し落ち着いてきたこともあったのであろう。木造二階建て校舎の建設が始まり、1938(昭和13)年に完成したと記念誌にはある。戦時中の大奈路国民学校を経て、終戦2年後の1947(昭和22)年、学制改革で「新生大正町立大奈路小学校」がスタートしたのである。そして翌年には、小学校校舎に2教室を増設する形で中学校が併設された。しかしまだこの時の中学校は、大正中学校の分校としてのスタートで「本校に昇格」するのは2年後である。また、1917(大正6)年に設置された下道分校が1969(昭和44)年に合流する。

再編に次ぐ再編、紆余曲折を経て、いよいよ、大奈路小学校・中学校という、旧大正町北部における義務教育の砦が築かれたのであった。



1.建設中の校舎。昭和13年に完成した。校舎玄関横には二宮金次郎の像があった(閉校記念誌より)
2.二宮金次郎の像は移設され、今も敷地内にある。
3.大正8年度の児童の通学区域を記した図(大正町史より)

町のうごき

| (5月31日) | 人口 | 前月比 | 出生 | 死亡 | 転入 | 転出 |
|---------|--------|-----|----------|----|----|----|
| 男 | 6,913 | -7 | 男 4 | 13 | 12 | 10 |
| 女 | 7,450 | -26 | 女 2 | 16 | 4 | 16 |
| 計 | 14,363 | -33 | 計 6 | 29 | 16 | 26 |
| 世帯数 | 7,779 | -14 | (5月中の届出) | | | |

窪川地域 10,271人 大正地域 1,977人 十和地域 2,115人